

科目名	運動方法学演習 5 (バスケットボール)					開講 キャンパス	神 崎
担当者	松 本 大 輔						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	この演習では、ルールや技能をただ習得するだけでなく、そのゲームのもっている固有の競争課題や対決状況を学びながらゲーム状況における技能の発揮や戦術の展開を学ぶ授業になります。そのことを通して、学校教育においてバスケットボールを教えることを学ぶように展開します。よって授業は、受講者の熟練度やゲーム展開にあわせて実施する課題生成型授業です。						
授 業 の 到達目標	<p>熟練者と未熟練者が混在した体育授業を念頭に置いた攻防分業論に基づきゴール型としてのバスケットボールのゲームの理論を理解した上で実践に反映できることを到達目標にする。具体的な目標に関しては以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ゲーム構造論について理解しゲーム状況における技能を発揮することができる。 2) バスケットボールの持つ運動の特性について理解し、積極的に取り組むことができる。 3) 戦略・戦術・作戦の違いを理解しゲーム状況において立案する事ができる。 4) 実践した内容に関し、理解しその内容を説明することができる。 5) 学校教員としてバスケットボールに対する基礎技能を身につけることができる。 6) バスケットボールの指導法について理解を深めることができる。 7) グループで話し合い、ルールや場の工夫を行うことができる。 8) 実技を行う際の安全について理解し実践することができる。 						
学習方法	実技演習、講義						
テキスト及び参考書等	テキスト：テキストは使用しない。授業中に学習内容に応じた資料を配布する。 参考図書：鈴木直樹ら「誰もがプレイの楽しさを味わうことのできるボール運動・球技の授業づくり」(教育出版:2010) その他は授業中に適宜紹介する。						
評価基準・方法	到達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート	◎	○		○			30
授業態度			◎	○			15
受講者の発表							
授業への参加度	◎	◎	○	○			35
その他	○	◎		○			20
合 計	ゲーム理解、指導法理解等の内容理解						100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	オリエンテーション						
第 2 週	チーム分け・ボール慣れ・基本的なルール説明と用語の整理						
第 3 週	試しのゲーム：集団内ゲーム						
第 4 週	集団内ゲーム (1)：どのように速攻を出すか・分業へのアプローチ						
第 5 週	集団内ゲーム (2)：速攻法の創出と集団内での共有・集団間ゲームへ						
第 6 週	集団間ゲーム (1)：チームに応じた戦略の検出 I						
第 7 週	集団間ゲーム (2)：チームに応じた戦略の検出 II						
第 8 週	集団間ゲーム (3)：相手に応じた戦術の検出 I						
第 9 週	集団間ゲーム (4)：相手に応じた戦術の検出 II						
第 10 週	集団間ゲーム (5)：相手に応じた戦術の検出 III						
第 11 週	集団間ゲーム (6)：状況に応じた作戦の検出 I						
第 12 週	集団間ゲーム (7)：状況に応じた作戦の検出 II						
第 13 週	リーグ戦 (1)：総合的なチームとしての技能の発揮 I						
第 14 週	リーグ戦 (2)：総合的なチームとしての技能の発揮 II						
第 15 週	まとめ						
第 16 週							
備 考	<p>1. 学生へのメッセージ スキルテスト等ではなくゲームの理解、チーム内での役割の変化等から評価します。バスケットボールを学ぶこと、教えることは何かという問いをもつ。授業に参加してください。授業には運動ができる服装や運動靴で参加すること。毎回、筆記用具とタオル、飲み物(ペットボトル可)は各自用意すること。 授業内容に関する予習・復習を行い、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」をもちながら積極的に参加してください。 ※上記の授業プランは受講生の熟練度やゲームの展開に合わせて変更することがあります。</p>						